

## 概観

### 【政治・社会】

- ・5日、第43回国議会議長選挙が実施された。9日、総選挙の最終結果が発表され、ブルガリアの欧州における発展のための市民（GERB）が第1党となったが議席過半数には至らず、ブルガリア社会党（BSP）左派ブルガリアは議席半減となった。その他に権利と自由のための運動（MRF）、改革派ブロック（RB）、愛国戦線（PF）、「検閲のないブルガリア」、アタッカ、ブルガリアの復興のためのオルターナティブ（ABR）が議席を獲得し、議会構成政党は合計8政党となった。
- ・13日、議会第1党のGERBは議会各政党と組閣に関する協議を開始した。（注：11月7日、ボリスフ新首相を首班とし、PF及びABRが支持する、GERB及びRBによる連立政権が発足した。）
- ・27日、第43回国議会議が開会し、ツァチェヴァ議員（GERB）が議長に選出された。

### 【経済】

- ・1日、国家エネルギー・水規制委員会は、家庭用電力料金の平均9.79%値上げを決定した。
- ・22日、ブルガリア国立銀行（中央銀行）はコーポレート商業銀行（CCB）の資産に関する監査報告書を公表した。監査法人は、同行の資産の約3分の2が減損扱いとなる状況であると結論付けた。

この月報はブルガリア各種メディアの報道等を取りまとめたものであり、在ブルガリア日本大使館の意見や判断を反映するものではありません。

## 政治・社会

### 1. 内政

#### (1) 総選挙の実施

#### ◆国民議会議長選挙の実施及び結果

- ▶5日、第43回国議会議長選挙が実施された。
- 9日、中央選挙管理委員会は総選挙の最終結果を発表し、GERB、BSP左派ブルガリア、MRF、RB、PF、「検閲のないブルガリア」、アタッカ、ABRの計8政党が議席を獲得した。
- ▶10日、中央選挙管理委員会は、第43回国議会議の当選議員名を発表した。2つの選挙区で当選した議員による選挙区の選択の結果、12日、全選挙区の当選議員名が確定した。各党獲得議席数、各党得票率及び獲得票数は以下の通り。なお、

投票率は48.66%となった(前回51.33%)。

#### ▶各党獲得議席数

GERB: 84 (前回 97)  
BSP左派ブルガリア: 39 (前回 84)  
MRF: 38 (前回 36)  
RB: 23  
PF: 19  
検閲のないブルガリア: 15  
アタッカ: 11 (前回 23)  
ABR: 11

#### ▶各党得票率及び獲得票数

GERB 32.67% (1,072,491票)  
BSP左派ブルガリア 15.4% (505,

527票)  
MRF 14.84% (487, 134票)  
RB 8.89% (291, 806票)  
PF 7.28% (239, 101票)  
検閲のないブルガリア 5.69% (186, 938票)  
アタッカ 4.52% (148, 262票)  
ABR 4.15% (136, 223票)  
ムーブメント21 1.19% (39, 221票)  
人民の声 1.14% (37, 335票)  
(その他政党は省略)

## (2) 総選挙後の各党等コメント

### ◆GERB

▶5日夜、GERBのボリスフ党首は、同党は最終結果が判明するまで記者会見を行わないことを表明し、次期国民議会の構成政党とどのような連立が可能か現時点で予測することはできない、最悪のシナリオは再選挙となることであり、そうならば国家にとって壊滅的である、と述べた。

▶6日、同党のルミアナ・バチュヴァロヴァ氏は、GERBは連立政権の樹立のためRBと、可能であればPFの支援を求める考えである、我々の中道右派政策への支持を模索しなければならない、と述べた。なお、GERBはMRFや「検閲のないブルガリア」(BWC)との連立には断固として反対している。

▶10日、GERBは選挙の最終結果が発表されたことを受け、公式記者会見を行った。ボリスフ党首は、犠牲を払って組閣しても1ヶ月内に崩壊するのであれば無政府よりも悪いとし、組閣するのであれば、閣僚の責任を分担する連立内閣とすべきである、と述べた。GERBは6日、公式な連立ではなくGERB単独で政権を執る少数派内閣の組閣可能性について言及していたが、同党首は、GERBの獲得議席が84議席にとどまったことから考えを変えた、と説明した。同党首は、MRFとは連立を組まないと改めて述べた他、改革派ブロックを構成するカネフDSB党首が(ボ

リスフ党首以外の)別の首相を要求する「裏取引」を行っているとして批判した。一方、カネフ党首は、ボリスフ党首が首相になるべきではないとの連立条件は誤りだった、GERBと改革派ブロックの優先事項の大半は矛盾しない、と述べており、両党の連立に前向きな姿勢を表明した。

### ◆BSP

▶5日夜、国立文化宮殿(NDK)での記者会見において、BSPのミコフ党首は、BSPは投票者の判断により第43回国民議会では野党となることを決定した、BSPは社会が必要とする立法を支持する建設的な野党となるつもりである、と述べた。また、同党首は、BSPの惨敗を認めた一方で、同党は崩壊していない、ブルガリア国民はBSPを必要としている、と主張した。同党首は、惨敗の理由の一部は、困難な政権運営を強いられた前オレシャルスキ政権(MRFとの連立政権)への参画にあったと述べた。

### ◆MRF

▶5日夜、NDKでの記者会見において、MRFのメスタン党首は、一回目の組閣権限委任で組閣が成功しなければならない、これが二回目、三回目となることはブルガリアを危機に陥れることになる、と述べた。また、同党首は、第43回国民議会ではMRFなしで価値ある多数派となることは不可能である、と述べた。

▶13日、MRFのメスタン党首は、記者会見において、MRFは無条件かつ権力分担なしにGERBによる単独少数派内閣を支持する用意がある、しかし、ナショナリスト政党の関与する連立には断固として反対する、目的は安定の達成及び欧州大西洋指向の政府である、と述べた。同党首は、ナショナリスト政党の参画は国家を分断するとして、MRFは権力がなくてもやっつけていけるが、MRFを公的、政治的に遠ざけることは誰にもできない、と述べた。

### ◆改革派ブロック

▶5日夜、NDKでの記者会見において、改革派ブロック（RB）のクネヴァ「市民のブルガリア」党首は、GERBの勝利を祝福し、前回に引き続き今回も組閣に失敗する場合は、何かを大きく間違えているということだろう、と述べた。RBを構成する民主勢力同盟（UDF）のルカルスキ党首は、RBはGERBのポリソフ党首を首相として支持するのかと問われ、GERBは第一党であり首相を指名できる、我々にとっては安定した政府が個人の目標よりも重要である、と述べた。同じくRBを構成する強いブルガリアのための民主主義者（DSB）のカネフ党首は、今回当選した議員は任期を全うできないだろう、次期国民議会では理想的な連立を組むことはできない、と述べた。

▶9日、RBを構成する各政党党首は、次期内閣に関する議論を行った結果、RBはGERBによる少数派内閣を支持しないこと、RBは一定の条件の下にGERBとの連立に参加する用意があるとの共同見解を発表した。DSBのカネフ党首は、記者会見において、「改革を実施するには国民議会における明確な多数派が必要である。改革が実施される保証がある場合に限り、我々は次期内閣の首相及び閣僚を誰とするかに関し議論する」と述べた。RBは、GERBとの連立に参加する条件として、オレシャルスキ前政権を支持した政党（注：BSP、MRF及びアタッカ）以外による安定した議会多数派の確保、透明かつ詳細な政治的合意の達成、具体的な改革及び実行期限の提示、欧州大西洋指向の保証、を挙げた。

#### ◆愛国戦線

▶5日夜、NDKでの記者会見において、愛国戦線（PF）共同党首のカラカチャノフ内部マケドニア革命組織（VMRO）党首は、ブルガリアが安定した政府を持つことが重要である、しかし、PFは大臣職を得るためだけに政府に参画することは決してない、我々はMRFを除く全政党と重要な優先事項について協議する用意がある、と述べた。PF共同党首のシメオノフ・ブルガリア救

済国民戦線（NFSB）党首は、PFの主な優先事項の一つは選挙法の改正である、EU加盟国外に居住するブルガリア人及びブルガリア語を話さない人々は投票権を有するべきではない、と述べた。

#### ◆アタッカ

▶5日夜、アタッカのシデロフ党首は、記者団に対し、（アタッカが議席を獲得できないという）あらゆる不吉な予測の誤りを証明した、と述べた。同党首は、次期国民議会における同党の政策について問われ、自分は欧州で最低となっているブルガリア国民の所得をすぐに増やす方法に関し、いかなる協議にも参加するつもりである、と述べた。

#### ◆ABR

▶5日夜、ABRのカルフィン氏はブルガリア国営ラジオに対し、GERBは国民議会の全政党に向き合い、連立の合意を達することができるポイントを提案すべきである、と述べた。同氏は、全政党は総選挙に対し誤った計画を立てた、半分以上の有権者しか投票に行かなかったということは、政治及び政治家に対する信頼が完全に欠如しているということである、と述べた。

#### ◆プレヴネリエフ大統領の発言

▶7日、プレヴネリエフ大統領は、記者団の質問に答え、再度総選挙を行うのは問題の解決にならない、と述べた。同大統領は、「我々はブルガリア国民に対し、正しく投票しなかったため「追試」を受けるべきである、と言うことはできない。自らを正し、国民の提示した問題に責任を持って対処すべきであるのは国民ではなく、政治家である。ブルガリア国民は日曜日（5日）、投票を行った。今度は、国民の声を聞き国民の期待に沿えるよう、国民のメッセージを明確に読み取り、メカニズムを見出し、勇敢かつ分別を持つことが政治家に求められる。」と述べた。

#### （3）国民議会の開会

#### ◆第43回国議会の開会及び議長等の選出

▶27日、第43回国議会が開会し、議長等の選出が行われた。投票の結果、ツァチェヴァ議員（GERB）が圧倒的多数により議長に選出された。賛成票は219、反対票は12（アタッカ議員11名及び他党議員1名によるもの）、また、棄権は1だった。なお、ツァチェヴァ議長は、GERB政権時代の2009年から2013年の間も国民議会議長を務めた。

▶副議長は各党より計8名選出された。ディミタル・グラフチェフ議員（GERB）、ヤナキ・ストイロフ議員（BSP）、アリオスマン・イマモフ議員（MRF）、イヴァン・イヴァノフ議員（RB）、クラシミル・カラカチャノフ議員（PF）、ヤヴォル・ハイトフ議員（ブルガリア民主センター（注：27日、「検閲のないブルガリア」は党名を「ブルガリア民主センター」に変更））、ヤヴォル・ノテフ議員（アタッカ）、ロシツァ・ヤナキエヴァ議員（ABR）がそれぞれ副議長に就任した。

▶また、27日、GERBのボリソフ党首は、国民議会において、新政権には①2015年の地方選挙まで、②2016年の大統領選挙まで、③4年の任期満了までという3つのシナリオがあると述べるとともに、次期大統領選挙には出馬しないと誓った。また、同党首は、2015年1月に再選挙を実施する可能性について、さらなる損失を生むだけであり、国民議会内の構成もさらに悪化するであろうと述べた。しかし、同党首は、28日開催の全党関係者間協議において、4年の任期を全うする第3のシナリオを選択すべきとし、そのためにはRBのみとの連立を目指すとして、前日の発言を撤回した。

#### ◆「検閲のないブルガリア」から1議員が党派離脱

▶28日の報道によると、「検閲のないブルガリア」（注：27日に「ブルガリア民主センター」に名称を変更）から当選したアンナ・バラコヴァ議員が、同党の議会会派を離脱し、無所属となった。同議員は選好投票により当選したが、党番号と名

簿順位が同じだったため、当選について党内から抗議が起こっていた。

#### （4）組閣に向けた動き

#### ◆GERBと議会政党との組閣に関する第1回協議

▶7日、GERBは、13日から7日間、議席獲得政党全てと組閣に関する協議を行うことを決定した。GERB側はツァチェヴァ氏を長とし、執行委員会メンバーのバチュヴァロヴァ氏及びストヤノヴァ氏が出席する。ボリソフ党首は第1回目の協議には出席しないこととなった。協議は議会第二政党から順に行われることになった。

▶13日、GERBは組閣に関する政党間協議を開始し、議会第二政党となるBSPと協議を行った。その結果、両党の政策の相違点が多いことから両党の大連立は困難であることが明らかとなった。GERBのバチュヴァロヴァ氏は協議後の記者会見において、両党の（政策面の）違いがあり、いくつかの政策は正反対である、BSPが妥協しなければ同党と協議を継続するのは困難である、と述べた。

▶14日、GERBは、議会第三政党となるMRFと組閣に関する協議を行った。協議の結果、両党は多くの政策について合意したものの、MRFがGERBによる単独少数派内閣を支持する一方で、GERBに少数派内閣を組閣する考えがなく、また、MRFがナショナリスト政党の内閣への参画を支持しないため、両党の連立は成立しないことが明らかとなった。GERBのバチュヴァロヴァ氏は、「GERBは「反MRF」内閣を考えている訳ではないが、一旦政権から離れることがMRFにとって最善と考える」と述べた。MRFのイマモフ氏は、なぜMRFがGERBの次期内閣から外されたかについてのGERBの説明に満足していない、と述べた。GERBは、協議後、組閣についての協議をMRFと続ける予定はないが、同党との対話は維持する、と説明した。両党は、18の優先項目のうち、12項目について合意したが、会計監査庁及びコズロドゥイ原発7号基建

設計画の2つの問題については、両党の意見が合致しなかった。コズロドゥイ原発7号基建設計画について、MRFはオレシャルスキ前内閣の示した方法に従い継続すべきであると主張したのに対し、GERBは本計画への政府保証の提供に反対した。

▶15日、GERBは改革派ブロック（RB）と組閣に関する協議を行った。協議の結果、GERBとRBは連立の合意に達しなかった。GERBは、連立協定への署名及びポリソフ党首の首相就任を主張した。GERBのツァチェヴァ氏は、記者団に対し、「GERBとRBのみで組閣することは不可能である。残念ながら、どのようにすれば安定した内閣を形成できるかという最重要質問に対する回答は、RBが信頼できるパートナーとなり得るか不明確であるため、得られなかった。」と述べた。RBのモスコフ氏は、「RBはGERBと交渉を続け、いくつかの事項について妥協する用意がある。我々は今週末までに我々の信頼性を証明し、GERBの疑念を払拭する用意がある。」と述べた。

▶16日、GERBは愛国戦線（PF）と内閣組閣に関する協議を行った。協議の結果、PFはGERBの組閣を支持することが明らかとなった。ただし、PFは条件として、MRFと連立しないこと、また、合意後は合意文書を締結することを挙げた。PFは、次期首相及び国民議会議長の指名権がGERBにあることについても認めた。また、PFは閣僚ポストの要求はしなかったが、仮に求められれば専門家を指名する用意があったとした。PFは、RBの構成政党である「自由及び尊厳」のホルマン・イスマイロフ氏（元MRF）の入閣は受け入れなかった。GERBのツァチェヴァ氏は、PFの支持が得られたもののまだ不十分なため政党間協議を継続する、と述べた。また、PFのシメオノフ共同党首は、我々はかなりの政策が一致したが、最終結論ではない、と述べた。また、同党首はMRFを政権から除外することを全政党に呼びかけた。GERBとPFはGERBの提案した18項目の優先事項のうち14項目に

ついて合意に達し、5項目について修正した。

▶17日、GERBは「検閲のないブルガリア」（BWC）と組閣に関する協議を行った。協議の結果、両党の政策面の相違が大きいことが判明し、GERBはBWCと次期内閣に関する更なる協議を行わないことを決定した。GERBのストヤノヴァ氏は、両党はGERBの提示した18項目の優先事項のうち最初の4項目についてのみ議論を行ったが、合意に達したのは最初の項目のみだった、両党は次期内閣の財政政策について大きく異なっている、と述べた。BWCのタンチェフ氏は、両党には多くの相違点がある、GERBにとって我々は小規模なので我々の支援を必要としていない、と述べた。

▶18日、GERBはアタッカと組閣に関する協議を行う予定であったが、アタッカは協議に現れなかった。アタッカのシデロフ党首は記者会見を行い、GERBとの協議に出席しなかったのは、同協議のテレビ中継の要求をGERBが拒否したことによる、と述べた。

▶19日、GERBはABRと組閣に関する協議を行った。協議の結果、両党は多くの優先事項について合意に達し、専門家レベルで組閣に関する協議を継続することとなった。両党は、GERBの提示した18項目の優先事項のうち、14項目について合意に達した。また、両党は、MRF、アタッカ、BWCを連立パートナーとしないことで合意した。

## ◆GERBと議会政党との組閣に関する第2回協議

▶20日、GERBのポリソフ党首は、党会合の後、13日の週に第1回目の政党間協議を行った7政党のうち、改革派ブロック（RB）、BSP、愛国戦線（PF）、ABR（ABV）の4政党と第2回目の政党間協議を行うと発表した。GERBは、MRF、「検閲のないブルガリア」（BWC）、アタッカの3政党とは更なる協議を行う予定はないとした。ポリソフ党首は、RBは内部問題を抱えているがGERBの唯一のパートナーである、

政策の90%が一致している以上我々は合意に達する義務がある、と述べた。

▶21日、GERBは、RBと組閣に関する第2回目の政党間協議を行った。協議にはRBを構成する政党の党首5名が参加した他、GERBのポリソフ党首も参加した。GERBのバチュヴァロヴァ氏は協議後、記者団に対し、両党は連立協定に向けて少なくとも一歩前進した、と述べた他、本協議ではこれまで明確にならなかった事項について両党の立場を明確にした、と述べた。また、カネフDSB党首は、本協議では次期内閣の閣僚ポストについては議論されなかった、愛国戦線（PF）の参加による連立が最善の選択肢である、と述べた。バチュヴァロヴァ氏とカネフ党首は、本協議では進展が見られたが、最終決定はGERBとBSP、PF、ABRとの協議後となる、と述べた。

▶23日、GERBは愛国戦線（PF）と協議を行った。PFのシメオノフ党首は、PFとしては入閣しないことを決定したと述べる一方、安定したガバナンスのためのプログラムに署名することでPFが新政権を支持する可能性はある、と述べた。GERBのバチュヴァロヴァ氏は、PFからの94の具体的提案について協議したと述べ、「我々は新政権の最も重要な課題である、コーポレート商業銀行（CCB）問題、金融分野の安定、エネルギー・システムと同様、その他の鍵となる重要事項についても合意した」と述べた。両者間の協議では、GERBに対するPFからの支援の形態につき意見交換が行われた。

▶23日、GERBはABRと協議を行った。バチュヴァロヴァ氏は、協議後、GERBは中道右派政権への支持を迫る一方で、重要な政府決定については左派であるABRからの支持も重視するとした。同氏は、今回の協議では、司法制度改革及び安全保障分野という2つの面において見解の差がより縮小されたと述べた。ABRのカルフィン氏は、GERBとBSPを含む連立政権を支持する旨述べた。また、「中道右派の連立政権はABRが入閣するものではないが、我々が個々の

政策を支持しないということの意味するのではない」とした。

▶26日、GERBはBSPと協議を行ったが、協議の結果、大連立を組むには至らないことが明らかとなった。GERBのポリソフ党首は、仮に大連立を組んだとしても、政治的安定はもたらされない」と述べた。

#### ◆ドール欧州人民党党首とポリソフGERB党首の会談

▶29日、ブルガリアを訪問中のドール欧州人民党（EPP）党首は、GERBのポリソフ党首と会談した。ドール党首は、改革派ブロック（RB）に対し入閣するかどうかの決定を促すとともに、愛国戦線（PF）との協力に反対を表明した。同党首は、我々はポピュリズムと過激主義を支持することはできない、PFのシメオノフ党首の国民議会開会時の発言は受け入れられない、と述べた。シメオノフ党首は、国民議会開会時、ブルガリアはトルコ国境に軍隊及びロケットを設置すべきである等発言していた。ポリソフ党首は、PFの党綱領は次期内閣の欧州一大西洋指向と相容れず、GERBにとって大きな問題となっている、と説明した。PFのシメオノフ共同党首は29日のポリソフ党首の発言を批判し、同党首は元首相として尊厳ある行動をとること及びドール欧州人民党党首にブルガリアの内政に干渉しないよう申し入れることに失敗した、と述べた。

#### ◆プレヴネリエフ大統領と各政党の協議

▶29日、大統領府は、プレヴネリエフ大統領が国民議会の全政党と協議を行うと発表した。協議は議席数の少ない政党から順に行われる。ブルガリア共和国憲法上、大統領と国民議会の全政党との協議は、組閣権限委任のために必要とされている。大統領は31日から1日当たり2政党と協議を行い、11月5日に議会第1党GERBのポリソフ党首に組閣権限を委任する予定である。

▶31日、プレヴネリエフ大統領は、議会政党との協議を開始し、最初にABRと協議を行った。

ABRのカルフィン院内総務は、同党は入閣しなくても特定の政策の支持のためGERBとの協定に署名する可能性を排除しないと述べた。なお、同日に予定されていたアタッカとの協議は、同党代表者が大統領の呼びかけに応じなかったため、実現しなかった。

(注：11月5日までに全8政党との協議が実施され、同月5日に組閣権限がGERBのポリソフ党首に委任された。)

#### ◆GERB、改革派ブロック、愛国戦線の暫定合意

▶30日、GERB、改革派ブロック(RB)、愛国戦線(PF)は組閣に関する三党協議を行い、PFが支持可能な政策プログラムに基づくGERB及びRBによる少数派内閣の形成について暫定的に合意した。なお、GERBのポリソフ党首は協議に参加しなかった。GERB側の出席者ドンチェフ氏は、GERBとRBが連立協定に署名した上でPF及びABRが政策プログラムを支持するという「2+2」のシナリオについて言及した。本シナリオによると、全240議席のうち過半数となる4政党の126議席の支持を得ることができる。なお、ドンチェフ氏は、本シナリオはPFとのみ議論したものであり、ABRの反応を聞く必要がある、と述べた。また、GERBはMRFからの支持の申し出を拒否した。

(注：その後、GERBとRBは政策綱領の合意に達し、11月6日に連立協定に署名した。同日、PF及びABRも連立政権への支持を表明した。その結果、同月7日、国民議会においてポリソフ首相を首班とする新政権が発足した。)

(5) その他総選挙に関する動き

#### ◆「検閲のないブルガリア」党首がトルコ国境を封鎖

▶1日、「検閲のないブルガリア」のバレコフ党首(欧州議員)が、トルコ国境のカピタン・アンドレヴォ検問所の交通を封鎖した。レソヴォとマルコ・トゥルノヴォの他の2つの国境検問所も交

通が封鎖された。同党首は、この行動はGERBとMRFが行っている「裏取引」に抗議するためである。

#### ◆OSCE及びPACE選挙監視団による記者会見

▶6日、欧州安全保障機構(OSCE)民主制度・人権事務所(ODIHR)のグローバー大使及び欧州評議会議員会議(PACE)代表団のフィアラ団長が総選挙後の記者会見を行い、政治危機の進行と、選挙疲れ及び政治疲れを特徴とする選挙環境が観察された、と述べた。監視団は、これらは過去18ヶ月間の間に3度もの選挙が行われたことに起因するとした。監視団は、「選挙活動は時にネガティブでポピュリスティックとなり、いくつかの政党は人種差別、外国排斥、特に少数民族をターゲットとした扇情的なレトリックを用いた。現行法を厳格に適用すると政府機関の約束にもかかわらず、票の売買が存続した。選挙日までに300件以上の不正報告があったにもかかわらず、検察当局で捜査されたのはこのうち2件のみである」と述べた。

#### ◆MRF当選議員に対する住民の抗議行動

▶13日、ブルガリア南西部のキュステンディルの住民数百名が、ジレンツィ村にあるギュエシェヴォ国境検問所につながる道路を車輛、オートバイ、トラクター等で約1時間封鎖した。同日、ドゥプニツァの住民もE-79道路を15分間封鎖した。道路の封鎖は、キュステンディル選挙区でMRFから当選したアレクサンダー・メトディエフ議員に対する抗議行動である。同議員は5日の選挙で、選挙区では864票しか獲得しなかったにもかかわらず、当選した。パウノフ市長は、MRFの票の大半は在外投票で獲得したものである、全議員が多数代表制により選出され、人々が投票したくなるような新選挙制度が採用される必要がある、と述べた。

(6) 政党の動き

## ◆「検閲のないブルガリア」バレコフ党首の欧州議員残留

▶10日、「検閲のないブルガリア」のバレコフ党首は、当選した国民議会議員を辞退し、欧州議員に留まることを発表した。同党首は7日、当初の表明通り、欧州議員を辞職し国民議会議員となると発表していたが、その後撤回することになった。

## ◆「検閲のないブルガリア」会派名変更

▶27日、「検閲のないブルガリア」は会派を構成する政党とともに会派名を変更し、「ブルガリア民主センター」とすることを決定した。また、スヴェトリン・タンチェフ氏が議院内総務に選出された。なお、同氏は前国民議会時にGERB議会会派を離脱し無所属となった。

(7) その他

## ◆前仏大使と独大使に勲章授与

▶1日、プレヴネリエフ大統領は、フィリップ・オーティエ前仏大使と離任するマティアス・ヘプフナー独大使に、スタラ・プラニナ（バルカン山脈）第一等勲章を授与した。両大使は、昨年、オレシャルスキ前政権に対する反政府抗議行動を支持していた。

## ◆北西部の爆発物加工工場での爆発事故

▶1日、北西部のゴルニ・ロム村で発生した爆発物加工工場の爆発事故により15名が行方不明となった。本工場は古い弾薬を使用して民生利用目的の爆発物を製造している民間の工場である。2日、政府は本事故を受け3日を服喪の日とすることを定めた。選挙活動最終日となる3日が服喪の日とされたことを受け、各党は予定されていた最終日のコンサートやイベントを中止し、選挙活動は未完のまま終わる形となった。

## ◆ゲオルギエヴァ新欧州副委員長候補が欧州議会委員会の公聴会で承認

▶2日、ゲオルギエヴァ予算・人事担当欧州副委員長候補は、欧州議会における3つの委員会（予

算、予算管理及び法律問題）の公聴会での質疑応答の結果、全会一致で同ポストに承認された。

## ◆ロシア副首相によるブルガリアの戦闘機買換えに対するコメント

▶8日、ロシアのロゴージン副首相が、ロシア製の古い戦闘機を米国製の戦闘機に買い換えようとするブルガリアの計画に関連し、「シャラマノフ国防相は再度ロシアを裏切るようブリズナシュキ首相を説得した」とツイートしたことを受け、ミトフ外相は、同発言は全く受け入れられないと述べた。同外相は、ブルガリアは安全保障に関して独立した決定を行う主権国であり、他国の意見を決定の条件とするものではない、と述べた。

## ◆ISILへのブルガリア国民の参加

▶30日、シャラマノフ国防相は、「イラク・レバントのイスラム国」(ISIL)の戦闘員として戦闘に参加しているブルガリア国民がいることを認めた。同国防相は、本情報を同盟国から得たとしており、憂慮すべき事態である、と述べた。

## 2. 外政

## ◆ミトフ外相：パレスチナ自治区ガザ復興会議出席

▶12日及び13日、ミトフ外相は、カイロで行われたノルウェー及びエジプトの共催によるパレスチナ自治区ガザ復興に関する会議に出席した。同外相は演説において、中東和平プロセスの大きな前進になるとして、ガザ及び西岸地区の共同統治の重要性を強調した。

## ◆プレヴネリエフ大統領：スイス訪問

▶13日及び14日、プレヴネリエフ大統領はスイスを実務訪問し、同国のブルカルテール大統領と会談した。会談において、スイスは6,300万ユーロの両国協力プログラムの枠組で、ブルガリアにおける職業教育改善プロジェクトに350万スイスフランを拠出することが明らかとなった。また、プレヴネリエフ大統領はビジネス・フォー



ラムに出席し、過去数年、ブルガリアはハイテク企業のアウトソーシング施設の開設先として選好されるようになっており、と述べた。

◆プレヴネリエフ大統領：ASEM10出席

▶16日、プレヴネリエフ大統領は、ミラノで開催されたアジア欧州会合第10回首脳会合（ASEM10）に出席した。同大統領は会合において、南東欧は欧州とアジアを結ぶ戦略的な架け橋であり、両大陸間の貿易促進に貢献することができる、と述べた。

◆プレヴネリエフ大統領：欧州理事会出席

▶23日及び24日、プレヴネリエフ大統領はブリュッセルで行われた欧州理事会に出席した。同理事会では、EUの気候・エネルギー政策の他、西アフリカでのエボラ出血熱対策に焦点が当てら

れた。

◆フィッシャー・オーストリア大統領のブルガリア訪問

▶30日及び31日、オーストリアのフィッシャー大統領はプレヴネリエフ大統領の招待によりブルガリアを公式訪問した。両大統領は、両国は欧州のエネルギー多角化の必要性について合意しているとし、EU法及び第三次エネルギーパッケージを遵守したサウス・ストリーム天然ガスパイプラインの建設を支持すると強調した。また、両大統領はブルガリア・オーストリア・ビジネス・フォーラムを開会した。フィッシャー大統領は、ブリズナシュキ首相及びツァチェヴァ国民議会議長とも会談した。

経 済

1. マクロ経済

◆2014年度予算改定案に関する動き

▶1日、暫定内閣は2014年度予算改定案を承認した。同予算改定案は、前オレシャルスキ政権時に審議が行われたものの、可決しないまま国民議会が解散された。今回の予算改定により生じる余剰財源は、内務省の職員の給与の支払い費用の他、社会福祉、緊急医療サービス及び精神病院における赤字の補填に充てられる。政府の累積債務額は284億レヴァ、財政赤字は対GDP比4%となる見通し。また、年度内の国債発行上限額を45億レヴァに引き上げている。

▶28日、暫定内閣は2014年度予算改定案及び国民健康保険基金（NHIF）予算改定案を国民議会に提出した。

◆9月のインフレ率は前月比マイナス0.2%

▶14日の国家統計局の発表によると、9月のインフレ率は前月比マイナス0.2%となった。年

初比ではマイナス1.4%、前年同月比ではマイナス0.8%となった。また、年間平均インフレ率はマイナス1.6%となった。なお、基本食料品及び飲料品の価格は0.9%上昇したが、衣料及び靴、中古車、観光サービス等の価格は下落した。

◆8月のFDIは前年同月比倍の約2.4億ユーロ

▶14日、ブルガリア国立銀行（BNB）は、8月の外国直接投資（FDI）が2.35億ユーロに達したと発表した。これは前年同月比で倍以上の投資額である。また、BNBは7月のFDIを当初の7,400ユーロから2.35億ユーロに修正した。今年1月から8月までのFDIは12.2億ユーロであり、前年同期比4,750万ユーロの増加となった。

▶1月から8月までの期間、最大の投資流入はオランダ（4億ユーロ）、次いでオーストリア（2.4億ユーロ）、ロシア（1.5億ユーロ）からとなった。また、最大の投資流出先はルクセンブルク

(マイナス2, 460万ユーロ)となった。

#### ◆ブルガリアはEU内で2番目の低政府債務国

▶22日の報道によると、ユーロスタットの2013年度データはブルガリアの政府債務はEU内で2番目に低いとしている。2013年末時点で、EU全28加盟国の政府債務は1兆5,500億ユーロでGDPの85.4%である。GDP比で政府債務の低い国はエストニア(10.1%)、ブルガリア(18.3%)、ルクセンブルク(23.6%)、ルーマニア(37.9%)等となっている。

#### ◆財務省：来年度の経済成長率を1.2%に下方修正

▶22日、財務省は秋期マクロ経済見通しを発表し、2015年の経済成長率を1.2%に下方修正した。春期経済見通しでは来年度の経済成長率は2.6%とされていた。大幅な下方修正は、消費、投資及び輸出の予測値が引き下げられたことによる。なお、今後の経済成長見通しについては2016年は2.0%、2017年は2.5%としている。

▶なお、9日の報道によると、国際通貨基金(IMF)は、2014年のブルガリアの経済成長率予測を1.4%に引き下げた。IMFの報告書は、ブルガリア及びウクライナ、旧ユーゴスラビア諸国はロシアの天然ガスの供給断絶に対して最も脆弱であるとしている。また、IMFの報告書は、ブルガリアの失業率は現在の13%から2014年には12.5%となり、2015年には11.9%に減少すると予測している。

#### ◆9月末の財政赤字は14.8億レヴァ

▶31日発表の財務省の連結財政計画データによると、9月末の財政赤字は14.83億レヴァとなった。内訳は国家予算による赤字が6.58億レヴァ、EUファンド関連赤字が8.25億レヴァである。なお、前年同期の財政赤字は3.62億レヴァだった。収収の伸び悩み、EUが支払停

止中のEUファンド関連支出、社会保障支出等が財政赤字の要因となった。

#### 2. 経済政策, 産業

##### (1) 電力に関連する動き

#### ◆家庭用電力料金の約10%値上げ

▶1日、国家エネルギー・水規制委員会(SEWRIC)は、事前発表通り、家庭用電力料金の平均9.79%値上げを決定した。値上げ率は、ソフィア市を含むブルガリア西部に送電するCEZに対しては日中9.97%及び夜間9.84%、南中部及び南東部に送電するEVNに対しては日中9.7%及び夜間9.35%、北中部及び北東部に送電するエネルゴ・プロに対しては日中9.8%及び夜間9.51%である。

##### (2) コーポレート商業銀行問題

#### ◆コーポレート商業銀行問題に関する欧州委員会の声明

▶6日、欧州委員会は、コーポレート商業銀行(CCB)に預金を有する企業及び個人は保証限度の10万ユーロまで預金にアクセスできるべきであることを再度確認した。本声明は、ブルガリアの金融・銀行安定保護委員会からの書簡に対する返答として出された。欧州委員会は、声明において、CCBの預金者は6月末から預金にアクセスできず、政府は11月まで対策を講じないと発表しているため、欧州委員会は9月25日に違反手続きを開始した、と述べ、EU法は国内法より優先されることについて念を押している。

#### ◆コーポレート商業銀行に関する監査報告書の公表

▶22日、ブルガリア国立銀行(BNB)はコーポレート商業銀行(CCB)の資産に関する監査報告書の内容を公表した。CCBの資産を調査した監査法人は、同行が本来銀行として行うべき堅実な営業活動を行って来なかったために、同行の資産の約3分の2が減損扱いにしなければならぬ状況であると結論付けた。また、監査法人によ

ると、適切な保証により担保されていたのはCCBの債権のうちわずか13%である。報告によれば、9月末の時点で66億6200万レヴァの資産のうち、減損額は42億2200万レヴァに上るとしている。

▶BNBは、「金融機関としては尋常ではない商業上の慣習」が銀行経営において見られたとし、このような「慣習」は取引及び処理における本質的な問題を隠蔽することを目的とした複雑なスキームを通じて行われたとした。BNBの発表によると、融資の担保とされた資産の質に対する管理が行われず、その後のモニタリングも行われて来なかった。また、融資の担保とされた資産のかなりの部分が実際には不足していたり、存在していないため、回収が不可能な状況となっている。

▶監査報告書では、「借主の行動に対する管理と的を絞った融資の使途の欠如」との指摘がなされたが、BNBはさらに、「融資に関わる多くの再交渉が正当な理由無しに許容された」とした。監査法人側は、融資に関する文書が適正に管理されていないために本来手に入るはずであった利益を失っているとも指摘した。

▶22日、ミラノヴァ元BNB銀行監督担当副総裁は、ブルガリア国営ラジオのインタビューに対し、ローンの損害の大きさを考えるとCCBの認可剥奪は十分にあり得ると述べた。

(注：11月6日、BNB理事会はコーポレート商業銀行の認可を取り消した。預金者に対する保証額の上限は19万6,000レヴァであり、12月4日より支払いが開始される予定。)

### (3) 非EU諸国関連

#### ◆第9回中東欧・中国農業貿易・経済開発フォーラム

▶29日、グルデフ農業・食糧相は、ブカレストにおいて開催された第9回中東欧・中国農業貿易・経済開発フォーラムにおいて、「ブルガリアは中東欧諸国・中国間の農業・食糧分野における協力の更なる促進を非常に重要なものであると捉えている」と発言した。同フォーラムには、中国及び中

東欧諸国の農業大臣が出席した。中東欧諸国と中国による「16+1」イニシアティブは、中東欧諸国・中国間の国際協力と貿易関係の促進を目的としたものである。

▶同農相は、フォーラムにおいて、ブルガリアのEU加盟により、対ブルガリア農業投資額は2倍となったと述べた。また、過去4年間、ブルガリアは中国に対し、果物、ワイン、飼料、オイル原料植物、加工果物・野菜を輸出している。ブルガリアの農業は、ブルガリアの農産品・食料品、とりわけ、ワイン、乳製品、ローズオイル及び蜂蜜製品等の輸入に対する中国の関心の拡大に対応できる潜在的可能性を有している。

▶30日、グルデフ農業相と中国のハン農業相は、中国と中東欧諸国(CEE)間の農業協力促進のための協会設立に関する省庁間覚書に署名した。本協会はブルガリアに設立される予定である。

### (4) エネルギー関連

#### ◆サウス・ストリーム・ブルガリア社CEOの交代

▶7日の経済・エネルギー省のプレスリリースによると、ディミタル・ゴゴフ元国営ブルガガス社CEOがサウス・ストリーム天然ガスパイプラインのブルガリア部分の建設を担うサウス・ストリーム・ブルガリア社のCEOに任命された。

サウス・ストリーム・ブルガリア社は3日、総会を開催し、インコフ前CEOを解任するとともに、ゴゴフ氏を新CEOとして任命した。ゴゴフ氏は2007年から2013年11月までブルガガス社のCEOであったが、ストイネフ前経済・エネルギー大臣により、経営に問題があるとして解任された。他方、インコフ氏は国営エネルギー公社の元CEOであった。

#### ◆コズロドゥイ原子力発電所における原子炉延命措置

▶9日発表のコズロドゥイ原子力発電所のプレスリリースによると、同発電所の5号基原子炉の使用期限が60年間まで延命(注：現在の使用期限

は30年間)される可能性がある。

▶コズロドゥイ原子力発電所は、5号基原子炉の延命措置につき、仏露コンソーシアム(露ロスエネルゴアトム社、露ロスアトム・サービス社及び仏エレクトリシテ・デ・フランス社(EDF))と契約を締結したと発表した。ロスエネルゴアトム社及びEDFは、2017年及び2019年にそれぞれ使用期限を迎える5号基原子炉及び6号基原子炉の準備作業に既に参画している。コズロドゥイ原子力発電所6号基原子炉の延命措置についても、同様の手順が取られる見通しである。

#### ◆ロシアからの天然ガス供給が減少

▶29日、シュトノフ経済・エネルギー相は、ロシアからの天然ガス供給が減少していると発表した。29日の天然ガス供給量はパイプラインの低圧力のため100万立方メートル少なく、消費量は760万立方メートルとなった。パイプラインの圧力は38バール必要であるのに対し、前週の圧力は30～35バールに留まっていた。同相は、不足分はチレンのガス貯蔵施設から補われていると説明した。同貯蔵施設の現在のガス貯蔵量は4.83億立方メートルである。ロシアの説明によると、パイプラインの低圧力の原因は技術的問題によるものである。

(5) その他

#### ◆在外ブルガリア人の年間母国送金額は23億レヴァ

▶8日の報道の世界銀行の統計によると、在外ブルガリア人の母国への送金額は年間23億レヴァ又は15億米国ドルにのぼる。この数値は、在外ブルガリア人はブルガリアの最大の投資家であり、送金額は2013年の外国直接投資(FDI)を10億レヴァ上回っていることを示している。ブ

ルガリア科学アカデミー経済リサーチ研究所のザレヴァ氏によると、送金額の約72%は生活費に充てられ、残りの約11%が債務の返済、約10%が教育費、約6%が貯蓄に充てられており、ビジネスに使われているのは1%程度のみである。

#### ◆EUからの観光客数は15%減少

▶8日、ブルガリア観光業協会は、国家統計局の統計によると、今年の1月から8月までのブルガリアへの観光客は年ベースで5.8%減少したと発表した。また、EU加盟国からの観光客数は15.5%減少した。ブルガリアは伝統的市場である英国(24.4%の減少)、ドイツ(10.4%の減少)からの観光客を失いつつある。ルーマニアやギリシャからの観光客もそれぞれ17.6%及び26%減少している。マケドニア及びセルビアからの観光客は同程度で推移する一方、トルコ及びイスラエルからの観光客はそれぞれ30%及び29%増加した。

▶同協会のバイコフ会長は、政府は観光促進に1,000万レヴァ費やしても、インターネット広告には1レヴァも費やしていない、国内市場に対する広告についても資金を支出すべきである、と述べた。

#### ◆ルーマニアとドナウ河新架橋に関する覚書の署名

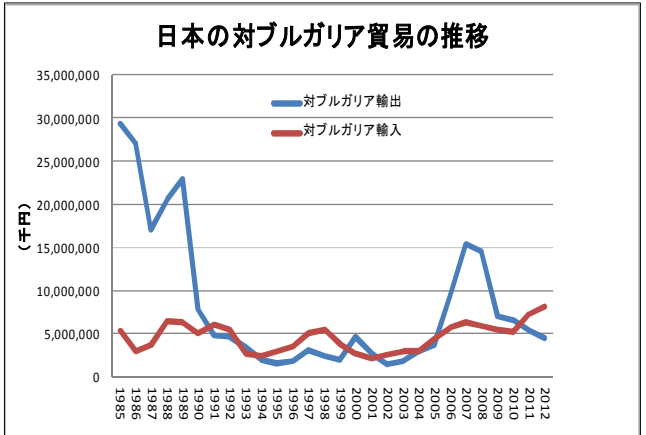
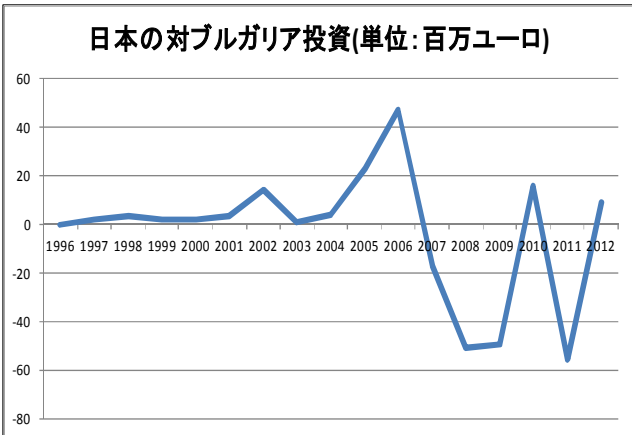
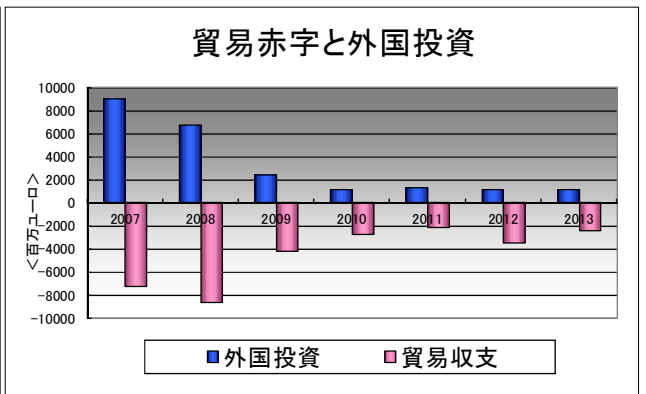
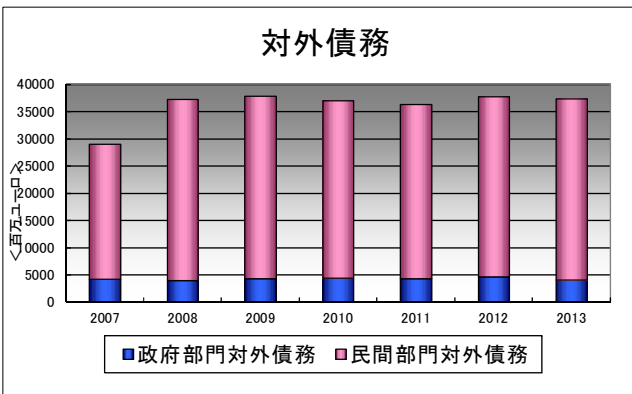
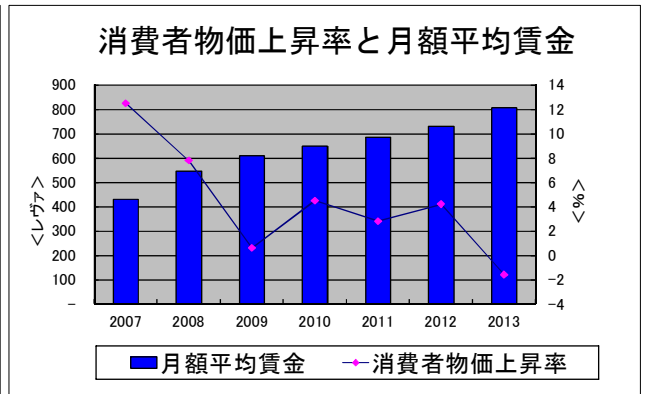
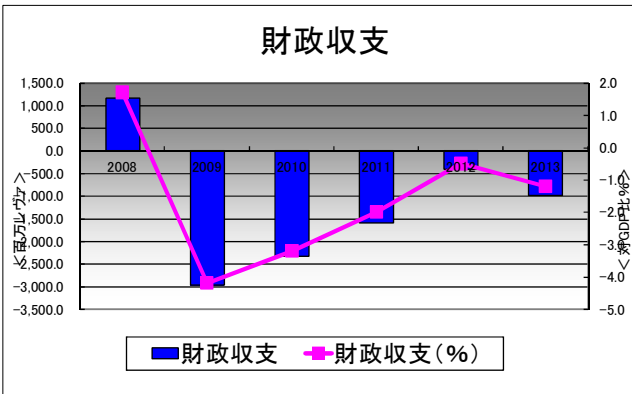
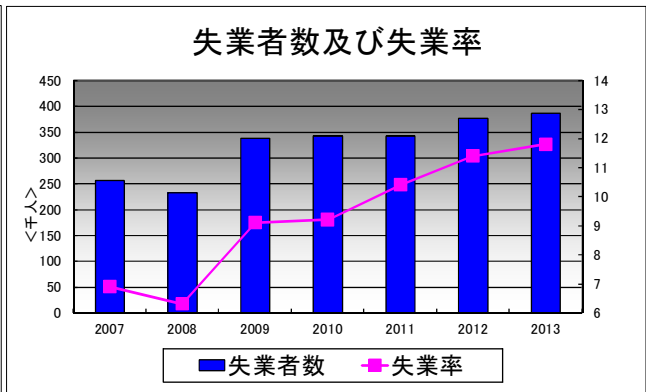
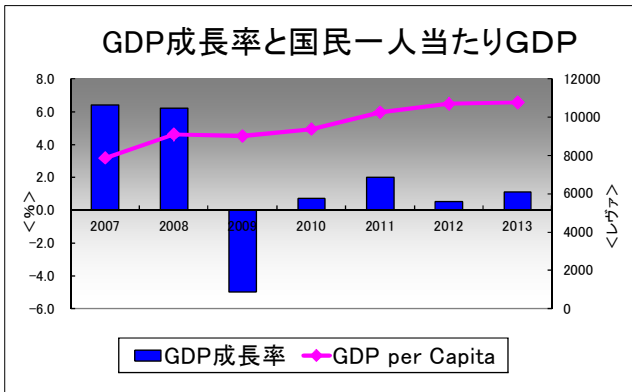
▶28日、アンゲルコヴァ運輸・IT・通信相とルーマニアのドラグネア副首相兼地域開発・公共行政相は、ブカレストにおいて、ドナウ河の2つの新架橋プロジェクトに関する調査実施のための覚書に署名した。本式典にはルーマニアのポンタ首相も出席した。新架橋プロジェクトはニコポルトウルヌ・マグレレ間及びシリストラーカララシ間の2つである。

## ブルガリア内政・外交の動き (10月)

在ブルガリア大使館

1 (水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●国家エネルギー・水規制委員会が家庭用電力料金の平均9.79%値上げを決定</li> <li>●暫定内閣が2014年度予算改定案を承認</li> <li>●北西部の爆発物加工工場での爆発事故発生により15名が不明</li> </ul>
2 (木)	
3 (金)	
4 (土)	
5 (日)	●第43回国民議会総選挙の実施
6 (月)	
7 (火)	
8 (水)	
9 (木)	●中央選挙管理委員会が選挙の最終結果を発表
10 (金)	
11 (土)	
12 (日)	☆ミトフ外相：パレスチナ自治区ガザ復興会議出席（～13日）
13 (月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●議会第1党のGERBが各議会政党との組閣に関する第1回目協議を開始</li> <li>☆プレヴネリエフ大統領：スイス訪問（～14日）</li> </ul>
14 (火)	
15 (水)	
16 (木)	☆プレヴネリエフ大統領：ASEM10出席（於：ミラノ）
17 (金)	
18 (土)	
19 (日)	
20 (月)	
21 (火)	●議会第1党のGERBが各議会政党との組閣に関する第2回目協議を開始
22 (水)	●ブルガリア国立銀行がコーポレート商業銀行に関する監査報告書を公表
23 (木)	☆プレヴネリエフ大統領：欧州理事会出席（～24日）（於：ブリュッセル）
24 (金)	
25 (土)	
26 (日)	
27 (月)	●第43回国民議会の開会，GERBのツァチェヴァ議員が議長に選出
28 (火)	
29 (水)	★ドール欧州人民党党首：ブルガリア訪問
30 (木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●GERB，改革派ブロック（RB），愛国戦線（PF）は組閣に関する協議を行い，PFが支持する，GERB及びRBによる少数派内閣の形成について暫定合意</li> <li>★フィッシャー・オーストリア大統領：ブルガリア訪問（～31日）</li> </ul>
31 (金)	●プレヴネリエフ大統領と各議会政党との協議開始

# ブルガリア経済指標の推移 (出典：国家統計局，中央銀行)



## ブルガリア主要経済指標 (出典: 中央銀行)

### < GDP成長率と国民一人当たりGDP >

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014 Q1	Q2
GDP成長率 (%)	6.2	-5.0	0.7	2.0	0.5	1.1	1.1	2.1
GDP per Capita (BGN)	9,090	9,007	9,359	10,248	10,689	10,752	-	-

### < 財政収支 >

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014Q1	Q2
財政収支 (million BGN)	1,156.7	-2,960.6	-2,328.0	-1,589.7	-405.1	-989.1	-404.5	235.2
財政収支GDP比 (% of GDP)	1.7	-4.2	-3.2	-2.0	-0.5	-1.2	-0.5	0.3

### < 失業者数及び失業率 >

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014 Jan	Feb	Mar	Apr	May	June	July	Aug	Sep
失業者数 (千人)	232	338	342	342	376	386	401	401	399	387	367	351	347	343	345
失業率 (%)	6.3	9.1	9.2	10.4	11.4	11.8	12.2	12.2	12.2	11.8	11.2	10.7	10.6	10.4	10.5

### < 消費者物価上昇率と月額平均賃金 >

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014 Jan	Feb	Mar	Apr	May	June	July	Aug	Sep
消費者物価上昇率 (%)	7.8	0.6	4.5	2.8	4.2	-1.6	-0.2	-0.4	-0.2	0.3	-0.5	-0.4	0.4	-0.2	-0.2
月額平均賃金 (BGN)	545	609	648	686	731	808	794	780	813	834	816	802	815	793	820

### < 対外債務 >

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014 Jan	Feb	Mar	Apr	May	June	July	Aug
政府部門対外債務 (million EURO)	3,935.9	4,208.3	4,326.9	4,205.0	4,578.9	4,062.4	4,100.7	4,093.5	4,086.6	4,053.9	3,995.6	4,020.9	5,293.4	5,343.5
民間部門対外債務 (million EURO)	33,310.6	33,608.2	32,699.4	32,089.8	33,201.2	33,276.5	32,892.2	32,713.2	32,780.0	32,899.5	32,955.3	33,022.6	32,824.5	32,858.3

### < 対内直接投資と貿易収支 >

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014 Jan	Feb	Mar	Apr	May	June	July	Aug
対内直接投資 (million EURO)	6,727.8	2,436.9	1,151.2	1,330.2	1,141.7	1,156.7	90.0	221.2	446.7	544.9	689.7	751.3	986.2	1,221.4
貿易収支 (FOB) (million EURO)	-8,597.7	-4,173.9	-2,763.7	-2,156.1	-3,460.3	-2,430.0	-354.2	-570.2	-869.6	-1,224.3	-1,459.4	-1,608.2	-1,703.5	-1,861.2
輸出 (FOB) (million EURO)	15,204.0	11,699.2	15,561.2	20,264.3	20,770.2	22,271.4	1,582.6	3,231.5	4,864.1	6,621.3	8,405.8	10,289.5	12,329.0	14,264.4
輸入 (FOB) (million EURO)	23,801.7	15,873.1	18,324.8	22,420.4	24,230.4	24,701.4	1,936.8	3,801.7	5,733.7	7,845.6	9,865.2	11,897.7	14,032.5	16,125.5